

[ロック世代のサウンド・マガジン]

Beat Sound

No.14
2010
WINTER

巻頭
特集

HR/HMしか愛せない

No HR/HM, No Life.

ハードロック/ヘヴィメタル名盤100+α

1965-2010 Technology & Technique For Making Music

マーティ・フリードマン・インタビュー

STONE ROSES, AC/DC, METALLICA, KORN, LINKIN PARK,
JIMI HENDRIX, DEEP PURPLE, RAINBOW...AND MORE



特集1

デジタルファイル・ミュージック実践篇
教えます! PC時代のシステム構築術

特集2

iPodでは聴けない、デジタル・レコーダーの高解像度ロック!

「ザ・ビートルズBOX USB」衝撃のFLAC音声



Nu Force Icon

text= 山本浩司

Recommended Choice

プリメインアンプ

ニューフォース Icon
¥35,700



手のひらサイズの超小型インテグレートッドアンプ。ラインアウト出力を使用し外付けパワーアンプと組み合わせることも可能。iPodとはステレオミニジャックによるアナログ接続となる。ヘッドフォン端子も装備。(編集部)

- USB 対応サンプリング周波数：～48kHz ● 対応ビットレート：～16bit ● 接続端子：PC用USB1系統 (B type)、アナログ音声入力2系統 (RCA)、φ3.5mmステレオミニジャック ● 出力：12W × 2 ● 寸法 / 質量：W32 × H150 × D106mm/411g ● 備考：専用スピーカーケーブル (1.5m ペア)、専用スタンド付属。ボディカラーはシルバー、ブルー、レッド、ブラックの4種
- ◎ フューレンコーディネート
- 0120-004-884

スピーカー

mhi
EVIDENCE MM01A
¥84,000 (ペア)

- 型式：2ウェイ2スピーカー・バスレフ型 ● ユニット構成：ウーファー・12cmコーン型、トゥイーター・リボン型 ● クロスオーバー周波数：10kHz ● 感度：90dB/W/m ● インピーダンス：4Ω ● 寸法 / 質量：W152 × H247 × D229mm / 4.0kg
- ◎ サエックコマーンス (株) ● 03 (3588) 8481



西海岸に新たに誕生したスピーカーメーカーのデビュー作。バイワイアリング対応のしっかりとした端子部を持つ。仕上げは多層に塗り重ねたピアノブラックの1種類のみ。(編集部)

USB入力付プリメインアンプ、2機種目も掌に乗りそうなデスクトップ・タイプの超小型機、ニューフォース Icon (アイコン) だ。同社はカリフォルニアに本拠を置く新進メーカーで、独自のPWM (パルス幅変調) 技術である<アナログスイッチングテクノロジー>を引っ提げ小型高効率の音のよいデジタルアンプを次々にリリース、わが国でも08年にデビューして瞬く間に人気ブランドとなったニューフェイスだ。レッド、ブルー、ブラック、シルバーと4種類のカラーヴァリエーションが用意されたポップなデザインの本機 Icon にも、もちろんアナログスイッチングテクノロジーが搭載されており、12W + 12W の出力を保証している。入力はミニBタイプのUSB端子のほか、ステレオミニジャックとRCAのアナログ端子を各1系統備えている。

まずパイオニア S-31B-LR と組み合わせて、1.3m 離れたニアフィールド試聴でビートルズの24ビットFLACファイルをMAJIK DSとのRCAアナログ接続で聴いてみる。一聴、ケンウッド KAF-A55 との光デジタル接続をはるかに凌ぐ音のよさ。スタジオの暗騒音など細かな音を丁寧に拾い上げながら、音楽をダイナミックに描く。とくに「サージェント・ペパーズ〜」の「ア・デイ・イン・ザ・ライフ」のストリングス・セクションのバクハツ力に瞠目した。もっともこれはMAJIK DSの24ビットD/A変換アナログ出力の音のよさに因るところが大きいのは言うまでもない。いっぽうで12W + 12W の出力ではドライブアビリティに不満があり、近接試聴でも最大ボリュームでほくにはちょっと物足りない音圧に思える。最大ボリュームでも聴感上まったく歪みを感じさせないところに本機の非凡さがある



細かな音を丁寧に拾い上げながら 音楽をダイナミックに描く



とは思うが……。

Iconの資料を見ると、能率87dB以上のスピーカーとの組合せを推奨しており、82dB/2.83V/mのパイオニアS-31B-LRはやはり mismatches のよう。そこで、90dB/2.83V/mと小型スピーカーとしてはズバ抜けて高効率なmhiのEVIDENCE MM01Aを鳴らしてみることにした。MM01Aは11.5cmバルブコーンとアルミリポントツイーターを組み合わせた2ウェイ機だが、興味深いのはウーファの受け持ち帯域が10kHzまで伸びていること。つまりフルレンジユニットとスーパーツイーターの組合せというべきスピーカーで、耳の感度が鋭い2~3kHz付近にクロスオーバーネットワークが入らないため、ひじょうにスムーズなつながりのよい音が聴けるのだ。

確かにS-31B-LRからMM01Aに変更してIconで

鳴らしてみると、驚くほど鳴りっぷりが違うし、声や楽器の質感がなめらかに感じられる。FLACファイルでリッピングし、PCとUSB接続して聴いた「ブラッド・フロム・スターズ」の2本のスピーカーの間にぽっかりと浮かぶジョー・ヘンリーのヴォーカル、ジェイ・ベルローズのアンティーク・ドラムを駆使した響きの深いドラミングが、じつにナマナマしい音で聴けた。レイ・デイヴィスの新作でのコーラスのたっぷりとした響きのよさ、スタジオのエアがリスニング空間に甦ったかのようなリヴァーブのきめ細かさ、リボン・ツイーターの魅力が表現されていると思った。MAJIK DSとアナログ接続して聴いた24ビットFLACファイル「カム・トゥゲザー」のボールの独創的なベースの弾む感じやジョンのヴォーカルの艶やかさにも、IconとMM01Aの相性のよさを実感した。